

「第1回 小豆島ふるさと村全体整備基本計画策定委員会」における主な意見と対応方針（案）

項	ご意見	対応方針
現状と課題の整理	①小豆島町のエリアだけで考えるのではなく、各港の入込客数と島内の観光施設の分布から人流を考慮し、島全体を踏まえた計画にすること。	⇒「現状と課題の整理」および「需要圏域・利用者数の設定」において、小豆島ふるさと村及び小豆島町だけでなく周辺エリア（島全体）を含めて整理し、計画内容を検討する。
	②観光客はコロナ前の8割程度まで回復しているが、宿泊客は6割程度までしか回復していない状態である。宿泊業は廃業や人手不足によってコロナ前より稼働が落ち込んでおり、その点も加味して検討すること。	⇒「需要圏域・利用者数の設定」において、ご指摘の内容も踏まえ観光の現状として整理を実施する。
	③交通手段の充実が必要である。特にインバウンドはレンタカーを使うことが難しいため、自動運転車やキックボード等新しい交通手段を想定すること。	⇒「アクセス・動線の検討」において、小豆島ふるさと村内および周辺観光施設との二次交通について検討する。なお、関係者ヒアリングにおいて、島内交通事業者へもヒアリングを実施しており、現状を踏まえた検討を実施する。
	④若者の観光客は既に多い印象であるが、ファミリー層やミドルエイジ層など消費額が大きい層が不足していると感じる。	⇒「需要圏域・利用者層および利用者数の設定」において、ご指摘の内容も踏まえ検討する。
	⑤観光客の滞在時間が非常に短いため、観光における経済効果が薄れている。	⇒「ゾーニング検討」および「各ゾーンの空間構成」において、滞在時間を延長できるようなゾーンおよび施設毎の連携を検討する。
	⑥小豆島には特徴のある観光施設が多いが、限られた時間で周遊する際に「小豆島ふるさと村」が目的地として選ばれるようにならない。	⇒島内観光の結節点となり、周辺の観光施設に不足している機能を導入することが考えられるため、「現状と課題の整理」にて整理した周辺の観光施設を踏まえ、「各ゾーンの空間構成」において小豆島ふるさと村内における導入機能／施設等を検討する
	⑦現在も体育館等は運動施設として地元の方が使用しており、地元利用があることは平日など観光客が少ない時期にも人が集まる要素となり活用できる。	⇒現状の利用状況を踏まえたターゲット層の設定を行い、平日・休日の使われ方に留意した導入機能／施設等を検討する。 ⇒「社会体育等施設のあり方検討会」（生涯学習課）の方針を参考に検討する。
	⑧高齢者や障害のある観光客の方から問合せをいただく際に、島全体において、安心して過ごせる場所や宿泊施設のご提案がしづらいという課題を感じている。	⇒「各ゾーンの空間構成」および「各ゾーンの整備水準の設定」において、多様な人が安心して利用できるような、バリアフリー・ユニバーサルデザイン等の観点を踏まえて検討する。
コンセプトの検討、整備基本方針、ゾーニング検討	⑨ふるさと村が1つの起爆剤として島全体の課題解決に繋がる内容を検討すべきである。	⇒「現状と課題の整理」および「需要圏域・利用者数の設定」において、小豆島ふるさと村及び小豆島町だけでなく周辺エリア（島全体）を含めて整理し、計画内容を検討する。（※①と同じ）
	⑩農作物の活用方法や、公共交通等の課題に対して次世代モビリティや自転車道路の整備といった、島全体の課題解決に繋がる要素を追加するとより良い計画になる。	⇒「現状と課題の整理」および「需要圏域・利用者数の設定」において、小豆島ふるさと村及び小豆島町だけでなく周辺エリア（島全体）を含めて整理し、計画内容を検討する。（※①と同じ） ⇒「アクセス・動線の検討」において、小豆島ふるさと村内および周辺観光施設との二次交通について検討する。（※③と同じ） ⇒産業活性化の視点を踏まえて導入機能／施設等を検討する。
	⑪臨海部分でのシーカヤックの利用や船着き場の増設等、海の魅力についての検討も重要。	⇒臨海部分の活用方法について、関係者や事業者等のニーズも踏まえて導入機能／施設等を検討する。
	⑫道の駅・海の駅が一体であることをアピールできるアイデアがあるとよい。現時点では海の駅のイメージが湧かない状態であり、単なる海鮮市場とするのか、マリンアクティビティを充実するのかが考えられる。	⇒道の駅・海の駅の整備について、関係者や事業者等のニーズも踏まえて、一体的に活用できる導入機能／施設等を検討する。
	⑬沖にある弁天島は町用地であり、活用も考えられるのではないかと。	⇒弁天島の活用について、関係者や地域の意向を踏まえ検討する。
	⑭住民利用が多い施設はそのまま残し、宿泊施設は島外の観光客が利用できるようにするなど、今後に向けて残す機能は何か、また、既存施設の活用をどう取り扱うかが重要である。	⇒現状の利用状況を踏まえたターゲット層の設定を行い、各施設の使われ方に留意した導入機能／施設等を検討する。
	⑮住民利用と観光客利用がターゲットとして混在するとその施設の特徴が薄れてしまう懸念がある。	⇒ゾーン毎のターゲット層設定を行い、各ゾーンの機能を明確にしたうえで、住民と観光客の交流が生まれるような導入機能／施設等を検討する。
	⑯多様な利用者を想定し、バリアフリー化や安心して過ごせる施設が望まれる。	⇒「各ゾーンの空間構成」および「各ゾーンの整備水準の設定」において、多様な人が安心して利用できるような、バリアフリー・ユニバーサルデザイン等の観点を踏まえて検討する。（※⑧と同じ）
	⑰観光施設として食は避けは通れない点であると考えため検討すること。	⇒地産地消を促進する飲食施設等、関係者や事業者等のニーズも踏まえて導入機能／施設等を検討する。
	⑱子育て支援関係の施設や子どもを遊ばせる公園のようなスペースは重要であり、ふるさと村だけでなく小豆島町周辺の課題解決や魅力創造と連携すると良い計画になる。	⇒地域の現状を踏まえ、子育て世代・ファミリー層の利用に留意した導入機能／施設等を検討する。
	⑲宿泊客を呼ぶためには、夜のイベント等のナイトコンテンツが必要であり、蛍なども宣伝の1つとして含められるとよい。	⇒「現状と課題の整理」にて整理した周辺の観光施設を踏まえ、「各ゾーンの空間構成」において小豆島ふるさと村内における導入機能／施設等を検討する。周辺の観光施設に不足しており、ふるさと村の立地や魅力を発揮できる機能（＝ナイトコンテンツ等）の導入等を視野に入れて検討する。
	⑳経済・経営の観点から、「需要圏域・利用者層及び利用者数の設定」が非常に重要になる。人の観点が一番重要である。	⇒現状の利用圏域を踏まえ、滞在時間の延長が見込まれる宿泊利用者の増加につながる整備計画を検討する。また、インバウンド利用者の増加を見据え、近隣（関西圏）の空港からの利用を促進することとする。
㉑コミュニティの再生に関して、以下の視点が大事である ・移住者、外国人等も含む多文化共生社会の樹立 ・関係人口、副業人材との積極的な協働・オープンイノベーション、ソーシャルキャピタル ・スマートシティの実現 ・人口減少、高齢化、人手不足の中で、あくせくしないで働き暮らす社会（地域DX）	⇒ご指摘の視点を踏まえたターゲット層の設定と、地域コミュニティの拠点となるような導入機能の検討を行う。 ⇒ふるさと村を拠点として、多様な人々が交流するためのインフラとしての地域DX等の方向性について検討する。（上位計画等：かがわデジタル化推進戦略）	
㉒観光振興に関して、以下の視点が大事である ・アルベルゴ・ディフーズ（分散型宿泊施設の考え方） ・ワーケーション（関係人口創出、地域課題解決） ・ガストロノミーツーリズム（インバウンド中心の富裕層の獲得、アートツーリズムとの連携） ・サステナブルツーリズム（エコツーリズム、アドベンチャーツーリズムも含み、SDGsにも配慮した持続可能な観光）	⇒ご指摘の視点を踏まえ、地域資源を最大限活用できる機能および空間構成を検討する。 ⇒ゾーン毎のターゲットを設定し、既存施設（ふるさと村内、周辺施設）を踏まえた施設内容を検討する。	
市場調査の進め方	㉓地域住民の意見を汲み取れるような検討項目は調査の中に含まれているか。	⇒本年度「関係者ヒアリング調査」を実施し、地域及び各団体の意向（ニーズ）を把握した。今後、全体整備基本計画のとりまとめにおいて活用する。
	㉔ファミリー層に来てほしいという話であったが、親の意見を汲む機会はあるのか。	⇒「関係者ヒアリング調査」において、「小豆島あいく会」様を調査対象に追加した。
	㉕地元の方とうまく連携をとること。過去に苦戦した経験もあるため、地元の方の理解を得て運営できればよいと考える。	⇒「関係者ヒアリング調査」等から地域及び各団体の意向（ニーズ）を把握し、地域の願いを踏まえて全体整備基本計画を検討する。
	㉖市場調査の際に参入する企業に対して宣伝するとのことだが、小豆島のポテンシャルをしっかりと把握してPRできるとよい。	⇒「市場調査」の公募時のPRには、現地で撮影した360度写真等をWEB上に公開しバーチャル現地見学を実施予定であり、島に直接訪れられない事業者に対しても小豆島ふるさと村のポテンシャルを十分にPRできるよう配慮。 ⇒「市場調査」の基礎資料として、小豆島に関する情報を整理した資料を提示することで、小豆島のポテンシャルをPRできるよう配慮。